

平成20年度

決算報告

平成20年度の決算がまとまり、8月に開かれた町議会第3回定例会で認定されました。皆さんに納めていただいた大切な税金などが住みよいまちづくりにどのように使われたのか、その概要を紹介します。
【企画財政室財政課財政係 ☎ 34・2072】

一般会計

町の教育や福祉、土木など通常の行政経費を賄うのが一般会計です。

一般会計の決算額は、歳入(町に入ったお金)が102億2955万1千円、歳出(町が使ったお金)が97億8391万円となり、差し引き4億4564万1千円の黒字になりました。

なお、繰越明許費として翌年度に繰り越すべき財源が1409万1千円ありますので、これを除いた実質の黒字は4億3155万円になりました。

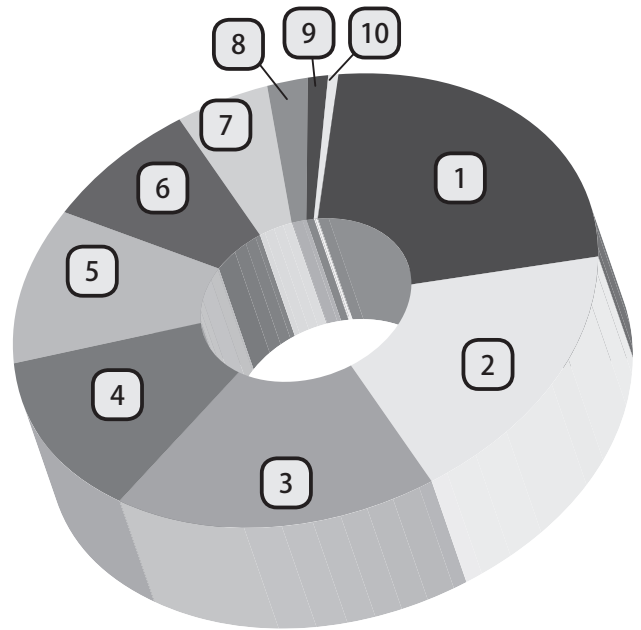
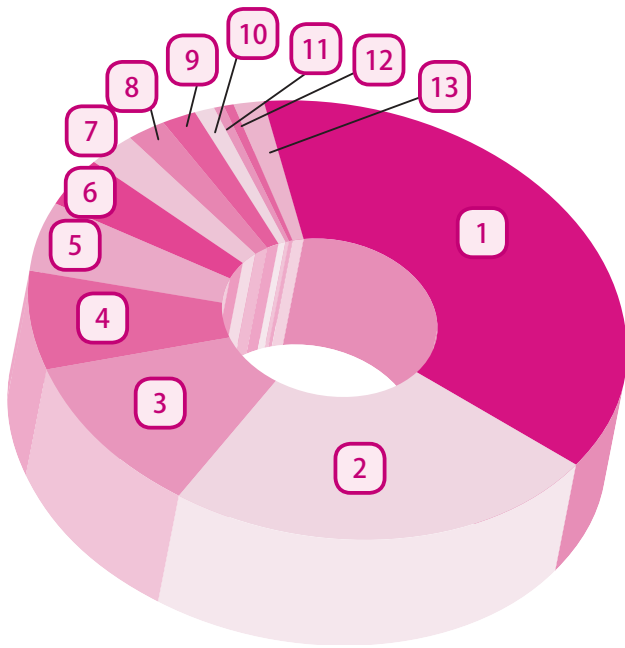
歳入

歳入のうち、町民税や固定資産税など皆さんに納めていただいた「町税」が最も大きな割合を占め、一般会計歳入の約38%になりました。

次に大きな割合を占めているのは、所得税・法人税・消費税など国が徴収した税金の中から、町の財政状況に応じて交付される「地方交付税」で約24%になり、町税と地方交付税の2つで一般会計歳入の約62%を占めています。

歳出

平成20年度に行った主な事業では、田原本駅周辺整備推進事業に



歳入 102億2955万1千円

歳出 97億8391万円

科目	金額(千円)	構成比(%)
1 町税	3,888,239	38.0
2 地方交付税	2,420,635	23.7
3 国庫支出金	1,146,006	11.2
4 町債	730,994	7.1
5 県支出金	552,935	5.4
6 繰越金	405,660	4.0
7 地方消費税交付金	265,379	2.6
8 使用料及び手数料	247,957	2.4
9 分担金及び負担金	183,804	1.8
10 地方譲与税	115,929	1.1
11 自動車取得税交付金	58,026	0.6
12 繰入金	51,104	0.5
13 その他	162,883	1.6
合計	10,229,551	100.0

科目	金額(千円)	構成比(%)
1 民生費	2,289,901	23.4
2 公債費	1,753,886	17.9
3 土木費	1,750,582	17.9
4 総務費	1,257,638	12.9
5 教育費	1,055,575	10.8
6 衛生費	816,792	8.3
7 消防費	484,825	5.0
8 農林水産業費	225,543	2.3
9 議会費	121,153	1.2
10 商工費	28,015	0.3
合計	9,783,910	100.0

科目	金額(千円)	構成比(%)
地方特例交付金	49,811	0.5
諸収入	37,299	0.4
財産収入	28,212	0.3
利子割交付金	22,102	0.2
配当割交付金	13,860	0.1
交通安全対策特別交付金	7,015	0.1
株式等譲渡所得割交付金	4,104	0.0
寄附金	480	0.0
小計	162,883	1.6

その他の内訳

これらをはじめ、少子高齢化社会に対応した福祉サービスの充実、保健関連事業、都市環境や生活環境の整備、産業の発展、教育・文化・スポーツの振興など各種事業を行いました。

9億6497万3千円を、また、国の史跡指定を受けた区域の用地取得を行う唐古・鍵遺跡公有化事業に3590万9千円を支出しました。

このほかにも、児童の安全確保や災害時の避難施設としての役割を果たすために行った平野小学校の校舎の耐震補強工事に4376万5千円を、老人福祉センターの指定管理者制度の導入費用として2430万円を支出しました。また、現在、ピークを迎えている公債費の償還に17億5388万6千円を支出しました。

特別会計

特定の事業を行うための経費を賄うのが特別会計で、7つの特別会計の決算額は左の表のとおりです。

なお、老人保健特別会計は1052万4千円の不足が生じたため、平成21年度の歳入で補てんしました。

水道事業会計

独立採算で運営を行う公営企業に水道事業があります。この会計は、経営

状況を示す「収益的収入・支出」と施設の建設投資を示す「資本的収入・支出」に区分されます。平成20年度決算額は左の表のとおりです。

収益的収支は損益計算による当年度純損失が4754万1千円生じ、前年度からの繰越欠損金を合算した結果、当年度末累積欠損金は2億924万8千円となりました。また、資本的収支は2億7232万4千円の不足が生じたので、過年度分損益勘定留保資金や積立金などで補てんしました。

平成20年度 町の主な財政指標

○財政力指数

地方公共団体の財政力を示す指標で、標準的な行政経費に対する町税などの標準的な収入の割合で表されます。簡単にいうと、行政の仕事に必要な費用をどれだけ自力で調達できるかということです。

数値が高いほど財政力があり、通常、数値が「1」を超えると普通交付税の不交付団体となります。

平成20年度の財政力指数は0.616で、前年度に比べ0.025低くなっています。

○経常収支比率

地方公共団体の財政構造の弾力性を示す指標で、町税などの経常的な収入が、人件費や公債費などの経常経費にどれくらいの割合で充てられているかを表しています。家計に例えるなら、給料など毎月決まって入ってくるお金が、食費や、光熱水費、ローンの返済など必ず支払わなければならない生活費にどれだけ使われているのかを示すものです。

この比率が高くなるほど、財源に余

裕がなくなり、新たな施設や道路、公園などの整備に充てる費用が少なくなることを意味します。

平成20年度の経常収支比率は93.6%です。経常経費の増加や、地方交付税の減少などの収入の伸び悩みにより毎年上昇が続いています。

○基金残高

平成20年度末現在、普通会計には7つの基金があります。

基金のうち、町の純粋な貯蓄といえる財政調整基金と減債基金の残高合計は、6億4203万9千円です。平成19年度末に比べ、4715万8千円減少していますが、減債基金を5000万円取り崩したためです。

また、特定の目的のための基金として福祉基金、ごみ処理施設整備基金、住宅新築資金等運用基金、土地開発基金、ふるさと応援基金があり、これらの残高合計は、13億7240万1千円です。

毎年基金が増加している主な理由は、ごみ処理施設整備基金に17、18、19、20年度のおのりとは別に2億円の積立を行ったためです。

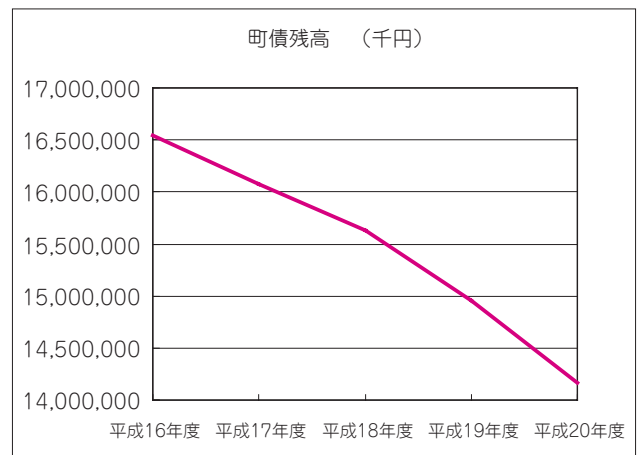
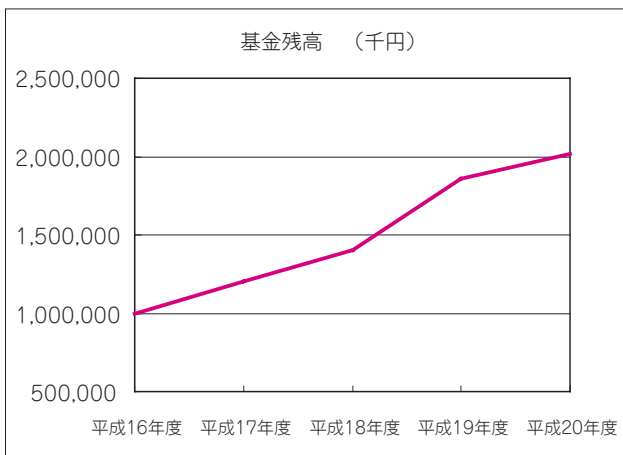
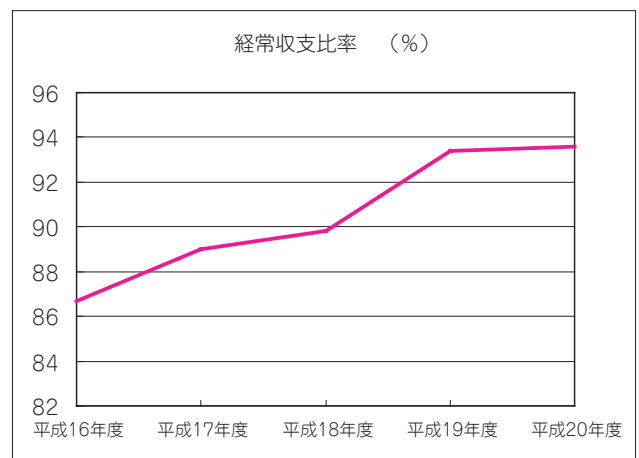
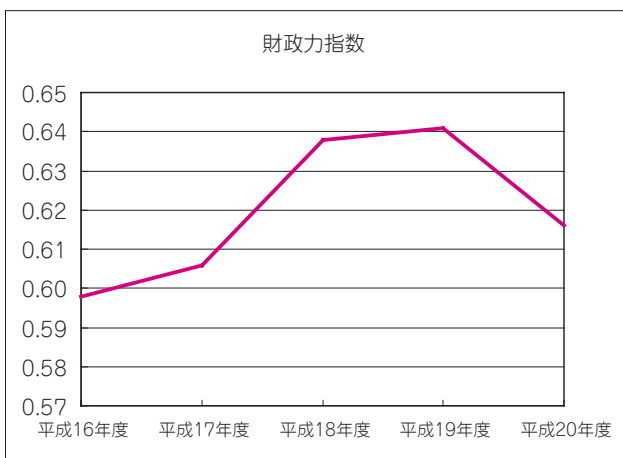
●平成20年度会計別決算（△はマイナス）

会計名	歳入額 (千円)	歳出額 (千円)	差引額 (千円)	
一般会計	10,229,551	9,783,910	445,641	
特別会計	国民健康保険	3,057,009	2,966,853	90,156
	住宅新築資金等貸付事業	12,534	12,093	441
	公共下水道事業	2,296,076	2,296,076	0
	老人保健	303,942	314,466	△ 10,524
	後期高齢者医療	303,195	302,805	390
	介護保険	1,845,637	1,774,878	70,759
	磯城郡介護認定審査会共同設置	13,819	13,022	797
水道事業会計	収入額 (千円)	支出額 (千円)	差引額 (千円)	
収益的収入及び支出	750,594	786,815	△ 36,221	
資本的収入及び支出	123,196	395,520	△ 272,324	

●主な財政指標（普通会計）

	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
財政力指数	0.598	0.606	0.638	0.641	0.616
経常収支比率（%）	86.7	89.0	89.8	93.4	93.6
基金残高（千円）	999,070	1,200,982	1,401,602	1,856,119	2,014,440
町債残高（千円）	16,540,714	16,073,283	15,626,503	14,949,980	14,168,349

普通会計：一般会計と住宅新築資金等貸付事業特別会計などを合わせた会計



決算書を見ることができます

町がどのような事業を行ったかは、決算書を見れば分かります。この決算書は、町役場情報コーナーまたは図書館で閲覧することができます。



○町債残高

町では、道路や学校などの公共施設の整備資金や、減税による減収分の補てん、地方交付税からの振り替えによる臨時財政対策債などの借り入れを行ってきました。

平成20年度末現在の普通会計町債残高は、141億6834万9千円です。町債残高は平成17年度以降毎年減少していますが、今後も元金の償還が進むことから更に減少していく見込みです。